

もの言う牧師のエッセー 第162話 「ボロ車」

クリスマス・ストーリー

アメリカの名物に“ボロ車”がある。車検がないために、少々古くても壊れたままでも走っている。中にはとんでもない状態のものも少なくない。アーカンソー州在住のタケット夫妻は、毎年の夏にミズーリー州ブランソン市で長期休暇を過ごす。行きつけのファミリーレストランの駐車場にボロ車があるのを数年前に気づいた。毎年そのレストランに行くたびにそのボロ車が同じ場所にあるのを見て、てっきり“遺棄”されているのかと思いきや（アメリカの田舎ではよくある）、何と同レストランで働くウェイトレスのシンディさんのものであることを知らされた。

「これはヒドイ。何かしなければ」と、タケット夫妻は彼女に車をプレゼントすることを決意。11月の感謝祭シーズンに同店を再び訪れた夫妻は、いつも通り食事を済ませた後、シンディさんを外へ連れ出し「メリー・クリスマス！」と言って車を引き渡した。赤いリボンのついたキレイな車を見て思わず泣き出すシンディさん。「あの古い車を見るたびに落ち込んだわ。でもお金がなくて…。」。善意の人により車が新調され喜んでいるシンディさんを見て、聖書のクリスマス物語に登場する不妊の老女エリサベツの懐妊を思い出した。

**「主は、人中で私の恥を取り除こうと心にかけて、今、
私をこのようにして下さいました。」ルカによる福音書1章25節、**

である。キリストが単なる偉人ではなく神である証拠に、千年以上前から彼の出現と活動内容が聖書に記されていたが、それだけではない。実はこの時エリサベツが産んだヨハネという人物は、キリストの出現を宣伝する為に生まれてきた男なのだ。世の有名人は“生まれた後”に人を組織したりするが、キリストは生まれる前に部下を持っていたことになる。しかもヨハネの出現もまた、彼の生まれる400年前に聖書で預言されているのだからスケールが違う。さらに、見込みのなくなった老女の出産も、それが神による圧倒的な業であることを裏付ける。古代ヘブルの時代に子供できず肩身の狭い思いをしていた彼女は最後に勝った。クリスマスには斯様な背景があるのだ。誰でもうまく行かない時には落ち込む。その結果、引きこもったり、やけになったり、人に噛み付いたりする人もいる。しかしキリストは、その様なボロボロにな

った我らの弱さや恥を取り除いて新しくするためにやって来られた。このクリスマス、イエスを心に迎え入れ、ボロボロの自分を新しくしていただこう。 2014-12-19

